バレーボール研究
第1巻 第1号 May 1999

海外の文献紹介：Volley 2000

―スウェーデンにおける子供のバレーボール―

吉田 敏明*

はじめに

現在の日本のバレーボールは様々な問題を抱えているのではなかろうか。シニアーナショナルチームの世界トップクラスからの離脱。特に男子におけるバレーボール人口の減少。相次ぐ企業チームの終息。企業チームの問題は既に周知の通り，バレーボールだけの事ではなく日本の企業スポーツ全体の危機的問題である。いずれにしても，日本のバレーボールはこのところ問題が山積しているのではなかろうか。

一方，ママさんバレーボールは相変わらず大変多くの人に楽しまれている。9,000チームを超える登録チームがあり，ママさんバレーボールは女性の国民的スポーツと言っても過言ではない。また，学校体育では，バレーボールは揺るがぬ位置を占め続けている。また，関係者の努力により2002年からは，小学校においてもバレーボールが教材となることになった。さらには，ビーチバレーの普及。加えて，身体障害者のシッティングバレーボールなどの特殊バレーボールの普及の兆しがある。このように，バレーボールを広角に捉えれば，バレーボールはスポーツ文化として，幅広い活躍をしているのである。

そのような明暗混在しているなかで，様々な情報を手に入れておくのは決して悪い事ではない。例えば，他の国がどのような対策で普及に取り組んでいるのかを見ておくのは，今後の日本におけるバレーボールの発展のために若干ながら役に立つのではないかと考える。

そこで本稿では，筆者がスウェーデンにてコーチングしていた時に遭遇した「Volley 2000 (ボレー2000)」と呼ばれる子供のバレーボールを紹介し，日本のバレーボールを考える上での情報としたい。

スウェーデンバレーボールの動向

最初に，スウェーデンのバレーボールの動向を簡単に見ておく事にする。スウェーデンのバレーボールは，学校体育や競技スポーツとして多くの人々に楽しまれているが，他のスポーツに比べると，マイナースポーツという観はぬぐい去れない。

1996年の統計では，一般的にプレー人口が一番多いのは，サッカー，次ぎに学校スポーツ（特定されたスポーツではなく，単に学校で行われるスポーツということである。従ってプレー人口が多いのは不思議ではない），ゴルフ，体操，スキーがベスト5である。

バレーボールはこの統計では27位である。また，公式競技の数では，サッカーが群を抜いて1位で，次いでアイスホッケー，ゴルフ，乗馬，クロスカントリースキーとなっている。さらに，クラブの数においてもサッカー，スキー，体操がベスト3でバレーボールは19位である。

このような単純な統計の一部を見ても，スウェーデンにおけるバレーボールは，生涯スポーツあるいは競技スポーツにおいてもプレー人口や試合数の少ない，どちらかというとマイナースポーツ的立場にあるということがわかる。そのことを反映してか，国際的な活躍も希薄である。男子では，1990年前後一世を風靡した。1989年スウェーデンで開催されたヨーロッパ選手権では，かつてのソ連をやぶり準優勝という快挙を上げている。しかし，その後，極端に力が落ち，ヨーロッパ選手権本大会にさえ出場できない時代が続いている。女子に至っては，世界的な活躍は皆無である。

協会関係者は，この競技力の低迷を明確に認識し，種々の方策を発案しているはずであるが，それらは結実せずにいる。そこでこの低迷を何とか打開しようとして生まれたのが，スウェーデンバレーボール協会が発案した子供専用のバレーボールゲーム，Volley 2000なのである。

スウェーデンのバレーボールマガジンによれば，Volley 2000は「少年少女がたやすくバレーボールに取り組めるように」生まれたと言われているが，単に画期的な子供向けのバレーボールという意味に止まらず，競技人口の増加を狙いとし，最終的にはナショナルチームの強化が意図されていると考えても突飛ではない。

1996年に誕生したVolley 2000は，まだ2才の赤ちゃんである。果たしてこのまま順調に成長するのか，それとも自然消滅するのか興味の尽きないところである。結果は，volley 2000に親しみ始めた年代が青年に達するおよそ7から8年後に明らかになるのではなかろうか。

さて，わが国においては，国際バレーボール連盟が推奨するミニバレーボール，ミニソフトバレーボールが行われ，さらに，わが国独特の小学生特別ルールを設け，子供のバレーボールを充実させている。しかし，依然検討の余地は多く残されていることには変わりない。ここで紹介するVolley 2000は，子供のバレーボールのあり方をさらに検討する際のひとつの材料になるのではなかろうか。以下次

* USA Volleyball
(前 Tierp Volleyball Culb：スウェーデン)

ぎのような内容で volley 2000 を見ていく ことにする。

1. 子供達の練習
2. 子供たちの公式試合
3. プレー年齢
4. 実施方法
5. プレー概要
6. 特徴

1. 子供達の練習

第1に，この項 (1. 子供たちの練習) と次の項 (2. 公式試合) で，さらにスウェーデンのバレーボール活動の背景を整理しておくことにする。

スウェーデンでは，学校組織が運営する学校対抗の試合はあるにはあるが，クラブ組織の試合また練習の方が活発である。学校運営の試合には，その都度メンバーを作って試合をするだけで，日本で言う日常的な部活動は行われない。日常的にはクラブで練習するのが普通である。従ってスウェーデンのスポーツ活動の中心は，クラブが担っているといっても良い。

ただし，活発といっても，練習は通常週に2日というところである。例えば，ティアップバレーボールクラブの14才&アンダーの練習スケジュールは，男子が火曜日と金曜日の各1時間，女子が月曜と土曜日に各1時間である（参考1を参照)。

2. 子供たちの公式試合

(1) 学校運営（学校対抗）の試合

12才（6学年）と13才（7学年）の試合が学校対抗の形式で行われる。これは，地域内対抗で，全国大会等には繋がっていない。学校対抗の全国大会はない。試合は volley 2000 で行われる。

なお，学校体育での教材は，インバンディ（アイスホッケーのインドアー版のようなスポーツ)，サッカーが多いが，バレーボール，そして Volley 2000 が行われることもある。

(2) クラブ運営の試合

a) ワンデートーナメント

第1に，各地方協会が主催するワンデートーナメントあるいはウィークエンドトーナメントと呼ばれる試合がある。この試合はその週末の試合だけで結果を出す試合である。しかし，勝ちの負けの結果は出るが，それにほとんどこだわることなく，プレーを楽しむ場として位置づけられているようである。

それらは，月に1回ないしは2回ぐらいのペースで年間

参考1 ……Tierp バレーボールクラブの練習時間

男子15才，14才&アンダー：火，金の各1時間
女子15才，14才&アンダー：火，土の各1時間
男子17才&アンダー：月，火，金の各1時間から1時間半
女子17才&アンダー：月，木，金の各1時間から1時間半
男子トップチーム：月，火，木，金の各1時間半から2時間
女子トップチーム：月，火，木の各1時間半から2時間

なお，体育館はグレードスクール（小中学校）の体育館を借りて練習をする。ただし，この体育館は，バレーボールの他にインバンディー，フロアーフットボール，あるいはテニスなどによっても使用される。従って，他の種目の練習時間との関係があるので，体育館確保は思うようにいかない。現在のところ以上のスケジュールが限度である。
他のクラブチームの練習時間もおおよそ同じようなものである。

参考2 ……スウェーデンの公式試合のまとめ

(1) 12才13才の試合
- 学校運営で行われる6学年（12才）と7学年（13才）の Volley 2000（地域)。
- 地域協会運営の Volley 2000。

(2) 14才の試合
- Volley 2000　上記と同様
- 全国大会　参加チーム数などはその都度発表される。

(3) 15才の試合
- ディストリック対抗全国大会。1月。
  ディストリックの選抜メンバーを組んで試合。男女各22チーム参加。

(4) 16才の試合
- ディストリック（地区）予選大会
- 少年少女ナショナル（全国大会)。4月。
  ディストリック（地区大会）を勝ち抜いた男女各24チームが参加。

(5) 17才&アンダーの試合
- ジュニアー選手権ディストリック（地区）予選大会：リージョンファイナル。
- ジュニアー選手権最終予選会。男女各12チーム参加
- ジュニアーナショナル選手権（全国大会)。5月
  ディストリック（地区大会）の1位と2位，それに最終予選会の5位までの，計男女各16チームが参加。

(6) 19才以上の試合
- 協会運営のリーグ戦
  a) エリートディビジョン（全国的)＝国内最高レベルのリーグ戦。
  エリートセリエン (Elitserien) と呼ばれる。男女各12チーム。
  b) デビジョン1, 2, 3 (1部, 2部, 3部) のリーグ戦
  エリートの下部リーグとして，1部から3部のリーグ戦がある。各デビジョン，全国4つのブロック（地域）にわかれて行われる。各ブロック男女8チームなので，各デビジョンの合計チーム数は計男女各32となる。
  ディビジョン間の入れ替えは，基本的には上位リーグの最下位が自動降格。上位リーグの最後から2番目のチームと下位リーグの上位2チームの3チームでリーグ戦が行われる。そのリーグ戦の上位2チームが上位リーグでのプレーが確保される。

を通じて実施される。試合数，試合運営は地方協会の活動力に依存されているので，活発な協会は，盛んに試合を組むが，そうでない地域ではまるで試合がないところもあるようだ。

b) ディストリック（地区大会）

全国大会の予選として行われるディストリック大会がある。これは文字どおりの全国大会の予選会である。日本流で言えば都道府県大会である。唯一，男女の13〜14才の試合だけが行われる。

c) ナショナル（全国大会）

年に1回全国大会が行われる。これは，volley-iaden（ボレーアードン：子供バレーボールオリンピック）と呼ばれる。先のデリストリック予選を勝ち抜いた24チームが参加できる。

3. プレーの年齢

以上のような背景のもとに実施されているのがスウェーデンのバレーボールである。次に，volley 2000の詳細に移る。

まず，プレー年齢である。volley 2000は12才から14才までの年齢で行われる。試合は，12才と13〜14才の2つの年齢層で行われる。前述したとおり全国大会，地方大会は13〜14才の年齢層だけで行われる。15才からは6人制へ移行する。なお，日本と同じように，いずれの場合も協会へ登録してはじめて参加資格を得る。

4. 実 施 方 法

次に，実施方法を以下に示す。協会が配布しているvolley 2000の普及マニュアルの「実施要項」を参考にした。

(1) コート
9×14 m，片面9×7 m。
アタックラインはセンターラインから3 mのところに引かれる。

(2) ネットの高さ

年齢	男子	女子
13才〜14才	224 cm	210 cm
12才	210 cm	210 cm

(3) ボール
5号ボール（皮張りの6人制用のボール）
空気圧　0.225-0.275 kg/cm²

(4) ゲームの得点方式
1セット15点の3セットマッチ。
1, 2セットはサイドアウト制，3セット目は，ラリーポイント制。

(5) サーブ
アンダーハンドの場合は，3 mラインから行う。オーバーハンドの場合は，エンドラインから行う。

(6) ワンバウンドプレー
ワンバウンドでプレーできる。ただし，サーブはノーバウンドでプレーしなければならない。

(7) 人数
プレーイング人数は，4人。チームメンバーは最高8人まで。ただし，人数が足りな場合は，3人ないし2人でもプレーできる。

(8) アタッカー
サーバーはアタックラインの中からはアタックできない。それ以外のプレーヤーはどこからでもアタックできる。

(9) メンバーチェンジ/ローテーション
6人制と同様に，サイドアウト毎に時計回りにローテーションする。メンバーチェンジは，味方がサイドアウトをしてローテーションした時ならいつでもできる。

(10) ユニフォーム
同じユニフォームを着なければならない。

(11) タイムアウト
1セット2回，各30秒。

(12) 男女混合
試合は男女別々に行われるのが基本だが，男子の試合で，男子3人女子1人などのように男女混合になっても構わない。

(13) その他
その他は6人制に準じる。

5. プレーの概略

次にプレー実施の方法を示す。プレーは図1のような配置で始まる。サービングチームの①がサーブする。オーバーハンドサーブの場合はエンドライン後方から，アンダーハンドの場合はアタックライン後方からサーブする。レシービングチームのプレーヤーの位置は，おおよそ図1の下のようである。③がネット際に位置し，残り④，①，②が3人直線型のサーブレシーブ体型を作る。従って攻撃の基本的組立は，④，①そして②がサーブレシーブを行い，③がトスして，④，①あるいは②がアタックする。この時，サービングチームは，図1の上のように②，③そして④がブロックに備え，後衛は①1人となる。

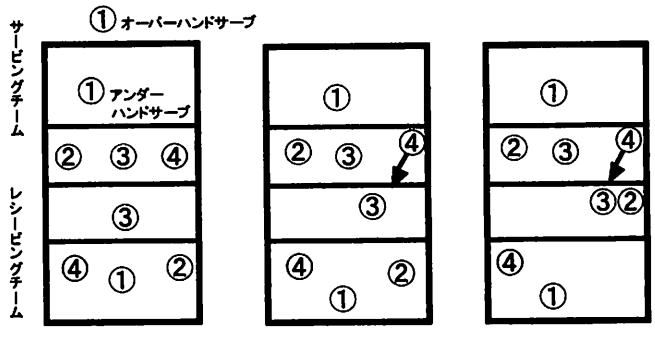

図1　図2　図3

守備は，図2のようになってしまうことが多いが，基本的には図3のように，②と③の2人でブロックする。この時②と③はブロックでストレートを打たせないようにして，①と④がクロス側をレシーブすることを推奨している。しかし，実際は図3のような配置になることはまれである。

サービングチームのアタックレシーブからの攻撃は，①のサーバーは攻撃に参加できないので，③がトスを上げて②あるいは④がアタックするというのが基本型となる。

基本的には以上の方法でプレーが繰り返される。なお，サイドアウト毎にプレーヤーは時計周り（①→②→③→④）にローテーションする。

6. 特　　徴

volley 2000の特徴は，プレーイング人数が4対4であること，コートの大きさが片面7m×9mと狭いこと，それにネットの高さを低くしていることが上げられる。これらのことは，わが国においても見られる工夫であり，子供のバレーボールの実施形態として適切な改良であると考えられる。また，プレーの実施において，前衛3人，後衛1人としてプレーヤーの位置を限定していることも特徴的である。

しかし，以上のような特徴にもまして，次ぎの点が極めて独自的である。それらは，(1) ワンバウンドでもプレーができること，それに (2) ボールが一般で用いられる5号球を用いることである。

(1)　ワンバウンドプレー

サーブはノーバウンドでプレーしなければならないが，その後は常にワンバウンドでプレーしてもよい。この利点として次ぎのようなことが上げられる。ワンバウンド後のボールはいわゆる「軽いボール」になるので，ボールに対する恐怖心，インパクトの痛さを軽減することができる。従って子供たちがバレーボールに取り組みやすくなっている。また，ワンバウンド後のボールのコントロールは比較的やさしいので，ラリーが長く続く。さらには，ワンバウンドにしてもボールを追いかける習慣がつき，それに伴って動きが出てくる。

一方，問題点も多々観察される。ワンバウンドさせてプレーしたらよいのか，ノーバウンドでプレーしたら良いかの判断に迷いが生じるケースが多々ある。また，ノーバウンドのプレーよりもワンテンポ遅れてプレーすることになるので，ワンバウンド後のプレーが多くなるとプレーのテンポが遅くなる。観察していると，12才の段階ではそれほど感じないが，13，14才の段階では，プレーのテンポが遅いために物足りなさを感じているプレーヤーを見かけることもある。

そして，とても重要なことと考えられるのが，バレーボールの基本であるボレーの感覚が養えないということである。12才の年齢では，巧緻性などの神経系統の発達を重視して練習やプレーするべき年齢であると考えられる。この年代に，バレーボールでは極めて重要なボレー感覚を養う場を提供できないのなら，それは多大な損失になるのではないかと考える。

(2)　5号ボール

次ぎにボールについて触れる。わが国における小学校高学年のソフトバレーボールでは，バレーボール協会が認定しているソフトバレーボールが使用される。また，小学生特別ルールのバレーボールでは4号球，中学生でも4号球が使用される。ところが，スウェーデンの同年代の子供達は，日本の高校生以上の年代が使用する革張り5号球を用いてプレーするのである。しかし，空気圧を低めに設定することにより，ボールを柔らかくして接触に伴う痛さを軽減しようとしている。

手が小さく，筋力の乏しい小さな子供が革張り5号球を使う事は，ボールコントロールの難しさ，あるいはボールに対する恐怖心という観点から，疑問視されるところでもある。

しかし，見たところ，子供らは特別の違和感をもたずにプレーしているようだし，子供らに尋ねてもボールが痛くて嫌だなどという返事はない。同年代の日本人とスウェーデン人との筋力，手の大きさなどの体格にそれほど違いはないと見受ける。すると，意外に革張り5号は子供たちにとってはそれほど問題のあるボールではないのかもしれない。

最後に

4対4のプレーイング形態など，6人制のリードアップゲームとして優れた内容をもつ volley 2000 は評価できるものと考える。しかし，ワンバウンドの問題をはじめとする種々の問題点はありそうだ。これらについて改良を施していけば，子供向け，あるいは普及版バレーボールとして十分に価値を見い出せるのではなかろうか。